

日本の田舎は宝の山

農村資源を都市のニーズと結べば 10兆円産業が動き出す！

曾根原久司
 NPO法人えがおつなげて代表理事
 内閣府地域活性化伝道師
 山梨学院大学現代ビジネス学部兼任講師
 やまなしコミュニティビジネス推進協議会会長



山梨県、三愛地所株式会社、三愛地所ホーム株式会社
 及び特定非営利活動法人えがおつなげてとの
 山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定 締結式



日本の田舎は宝の山

農村起業のすすめ
曾根原久司

日本経済新聞出版社

日本の田舎は宝の山
農村資源を
都市のニーズと結べば、
10兆円産業が動き出す！

耕作放棄地 森林 空き家 果樹園 用水路 太陽 ……
農村資源を都市のニーズと結べば、
10兆円産業が動き出す!!
一次産業×二次産業×三次産業＝六次産業化をめざそう。

地域活性化のありさま伝道師が
数々の実践事例と、農村起業のための
かんどころを数えます。

生産者支援（山梨県）
日本経済新聞出版社



山梨県北杜市 須玉町増富地区



高齢化率 62%

高齢化率 62%
耕作放棄率 62%

高齢化率 62%
耕作放棄率 62%
生産農家 ゼロ!

高齢化率 62%
耕作放棄率 62%
生産農家 ゼロ！
JAも撤退！

耕作放棄率 62%
高齢化率 62%
生産農家 ゼロ！
JAも撤退！

えがおつなげて
2001年2月設立
2003年構造改革特区
増富地域交流振興特区
特例措置(農地の貸与許可)
100km²の**限界集落**で活動開始

1995年／山梨県北社市白州町へ移住
個人として、農村事業(農林業・都市農村交流事業等)を開始する。
農村事業ノウハウの蓄積
2001年／NPO法人えがおつなげて設立
個人事業をNPO事業に移転していく。

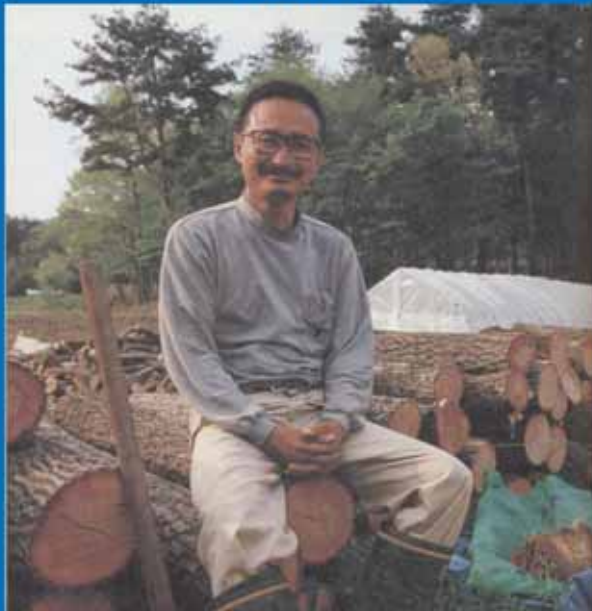
自己紹介

我が家の窓から臨む南アルプス甲斐駒ヶ岳

日経平均株価 (月末値)



里山林業

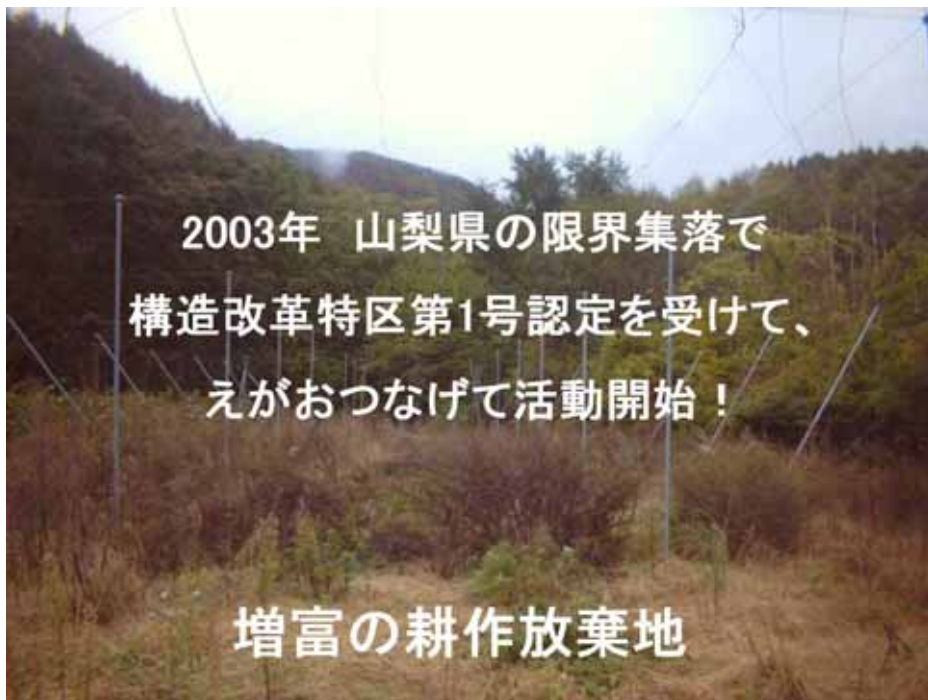


1995年／山梨県北杜市白州町へ移住
個人として、農村事業(農林業・都市農村交流事業等)を開始する。
農村事業ノウハウの蓄積

2001年／NPO法人えがおつなげて設立
個人事業をNPO事業に移転していく。

自己紹介

我が家の窓から臨む南アルプス甲斐駒ヶ岳



農村ボランティアによる遊休農地開墾

開墾前遊休農地



開墾中



開墾後の活動





まずは！
我々の
活動の成果を
ご覧ください！

長い間・・・
なんと、20年以上・・・

耕作放棄された
地域の棚田



企業との連携の活動で..

甦った 棚田



「酒米ひとごころ」



「純米酒丸の内」



間伐材の山



2×4住宅建材



三菱地所 えがおつなげての 都市と農山村をつなぐ 空と土プロジェクト

三菱地所グループCSR 都市と農山村をつなぐ「空と土プロジェクト」 2008年スタート



耕作放棄地・畑の開墾



耕作放棄地・棚田の開墾





丸の内レストランファーム構想 酒米づくり



想ひ出す 農地地主

三菱地所グループ

活用

空土ファーム

日常管理

認定農業者えがおつなげて

空と土プロジェクトツアー

	食と農	森林	エネルギー	ツーリズム
CSRツアー				
空土バスツアー				
酒米作りツアー				
空土倶楽部ツアー				

空と土プロジェクトツアー

	食と農	森林	エネルギー	ツーリズム
CSRツアー				
三菱地所グループ社員・家族				
空土バスツアー				
酒米作りツアー				
空土倶楽部ツアー				

空と土プロジェクトツアー

	食と農	森林	エネルギー	ツーリズム
CSRツアー				
三菱地所グループ社員・家族				
空土バスツアー				
三菱地所レジデンスクラブ会員				
酒米作りツアー				
空土倶楽部ツアー				

空と土プロジェクトツアー

	食と農	森林	エネルギー	ツーリズム
CSRツアー 三菱地所グループ社員・家族				
空土バスツアー 三菱地所レジデンスクラブ会員				
酒米作りツアー 丸の内エリアの就業者 <small>三菱地所グループ社員・家族 含む</small>				
空土倶楽部ツアー				

空と土プロジェクトツアー

	食と農	森林	エネルギー	ツーリズム
CSRツアー 三菱地所グループ社員・家族				
空土バスツアー 三菱地所レジデンスクラブ会員				
酒米作りツアー 丸の内エリアの就業者 <small>三菱地所グループ社員・家族 含む</small>				
空土倶楽部ツアー 空土倶楽部 登録者限定				

田植えツアー



稲刈りツアー



試飲・蔵開きツアー



親子キャンプツアー



収穫祭(味噌作り)



間伐材ファニチャーづくりツアー



三菱地所グループ 本業とのリンク

「間伐材等を活用した」 2×4住宅建材 開発

山梨県産材の活用に関する 四者協定 締結式

山梨県、三菱地所株式会社、三菱地所ホーム株式会社
及び特定非営利活動法人えがおつなげてとの
山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定 締結式



2011年8月31日

四者協定の仕組



集成材 & I型ジョイスト



構造用合板(FSC認証)



92



注目される！ 空と土プロジェクト

森林・林業白書

3. 木材利用の推進

木材の利用は、快適な住環境の形成や地域経済の活性化のみならず、地球温暖化の防止にもつながる。特に、国産材を利用することは、「輸入→育てる→使う→捨てる」というサイクルの維持により、森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるとともに、山元への収益還元により、産家の振興や雇用の確保等を通じて、地域の活性化にもつながる。

以下では、住宅分野における木材利用、公共建築物の木造化、木質バイオマスのエネルギー利用、木材輸出、木材利用の普及啓発について、最新の動向を記述する。

(1) 住宅分野における木材利用

(住宅分野は木材需要に大きく寄与)

我が国における木材需要の約4割、国産材需要の約55%が建築用材であり¹⁾、住宅を中心とする建築用材の需要拡大が木材全体の需要拡大に大きく貢献する。特に、我が国では、新築住宅竣工数の約半分以上が木造であり²⁾、木造住宅の動向が木材需要全体に大きな影響を与えている。

我が国における木造住宅の主要な工法として、

「在来工法(木造軸組工法)」、「ツーバイフォー工法(枠組壁工法)」、「木質プレハブ工法」の3つが挙げられる³⁾。平成22(2010)年における工法別のシェアは、在来工法が76%、ツーバイフォー工法が21%、木質プレハブ工法が3%となっている⁴⁾。

(大量消費市場に向けた取組を推進)

住宅分野における国産材利用を拡大するためには、住宅メーカーや工務店等が必要とする製品を低コストで安定的に供給することが重要である。

このため、林野庁では、平成16(2004)年度から、「新流通・加工システム」により、産材の仕分け・選別・乾燥・加工等の有価付加工程を低コストかつ大ロットで安定的に供給する体制の整備に取り組んできた。また、平成18(2006)年度からは、「新生産システム」により、製材の分野で、生産・流通・加工の各段階でのコストダウン、住宅メーカー等のニーズに応じた最適な加工・流通体制の構築等の取組を進めてきた⁵⁾。

このような動きを受けて、住宅メーカーでは、国産材を積極的に利用する取組が拡大している。我が国では、ツーバイフォー工法や軸組工法等、在来工法以外の工法を中心とする住宅メーカーでも、国産材の利用が拡大している(事例V-4)。

事例V-4 ツーバイフォー工法の住宅メーカーが山梨県産カラマツLVLを標準採用

ツーバイフォー住宅メーカーのM社(東京都千代田市)は、平成23(2011)年10月から、山梨県産のカラマツを使ったLVL¹⁾と1型ジョイント²⁾を住宅用材の標準材として採用した。

LVLはFSC認証を受けた山梨県産材から出材されたカラマツを加工したもので、梁部分に使用する。1型ジョイントは、フランチ部分にカラマツLVLを使用したもので、2階の床板材に使用する。同社では、年間500~600棟の施工実績があり、山梨県産カラマツの年間使用量は原木換算で2,000tに相当する見込みである。



注1) 単体梁材、ローワーグレードのLVLは単体梁材に代りして複層梁材として、Laminated Veneer Lumber(複層)である。注2) 梁部分に使用される材に適用される「1型」の構造材。上下のフランジ部分にLVLを、中央部にFSC認証材を使用する。



これからの 空と土プロジェクト

「本業に生かすCSR」

本業につながっているCSR活動は長続きする。
これが私の持論です。

事業にもプラスになり
同時に地域活性化にもプラスになる
まさにウイン・ウインの関係が
構築されつつあることを実感しています。

新たな共通価値の創造 (CSV: Creating Shared Value)

の必要性が提唱されていますが
当社の社会貢献活動は
まさにこの方向を向いていると思います。



三菱地所株式会社 杉山社長

博報堂、えがおつなげて 2012年1月1日連携協定書を締結

- 「えがおつなげて」は、都市と農村の交流を通じ、地域社会の活性化につながる活動も多数行っています。
- 博報堂は、「生活者発想」をベースとし、社会や企業が抱える課題を掘り起こし、解決することで、世の中や生活者の幸福がより大きくなることを目指しています。
- 今後は、「食」やそれを生み出す「農業」、また「地域共生」といったテーマが様々な社会課題の一つの重要な結節点になると考え、自らの体を動かす実体験を通じて社会課題への理解と洞察を深めていくために、「えがおつなげて」の活動と連携していくこととしました。また、こうした実体験が、社員同士の交流の活性化やチームワークの向上といったインナーコミュニケーションにも寄与することを期待しています。
- 第一弾の活動としては、2011年12月9日・10日に山梨県北杜市の耕作放棄地にて博報堂社員20名が参加し、約800㎡の土地を開墾しました。



博報堂社員による 開墾モリモリ～＼(^o^)／



博報堂 ファーム

博報堂社員による田植え



博報堂社員による田植え



博報堂社員による草とり



博報堂社員による草とり



博報堂社員による稲刈り



博報堂社員による稲刈り



博報堂社員による稲刈り



信玄餅の 金精軒の畑



日本経済新聞(関東甲信越版2012.10.18) 信玄餅の金精軒、自社生産の枝豆でずんだ餅

山梨の有名土産「信玄餅」を製造する金精軒製菓(山梨県北本市、小野光一社長)は、同市内の農地で自ら生産した「青大豆」と呼ばれる地元大豆を原材料とした和菓子「ほくとずんだ餅」を開発した。19日~21日、本社前の旧甲州街道沿いで開かれる大規模な骨董(こっとう)品市場に出品し、訪れた観光客に限定販売する。

ほくとずんだ餅は地元産米を使用した餅に、青大豆の枝豆をゆでてすりつぶし、ペースト状になったあんを添えた。1パックに餅が5個入っており、販売価格は250円。北社の錦秋を告げる骨董市場「台ヶ原宿市」で500パック取り扱う。手づくりで枝豆の豊かな香りを楽しめるという。

金精軒は農業再生に取り組む特定非営利活動法人(NPO法人)えがおつなげて(北本市、曾根原久司代表理事)と組み、6月から青大豆の栽培を始めた。地域の伝統食材を菓子に使用し情報発信するのが狙い。ずんだ餅の原料となった枝豆は9月28日に90キログラム収穫。収穫には金精軒の和菓子ファン12人も参加した。

11月には枝豆からさらに成長した青大豆を収穫する予定で、新たな和菓子を開発する。



米国CNNテレビ



韓国TVにて、放映！



日本経済新聞出版社

日本の田舎は宝の山

農村起業のすすめ
農村資源で10兆円産業！

韓国でも翻訳出版

韓国へ出版記念講演に行ってきました！
ソウル、大邱、忠清南道、済州島





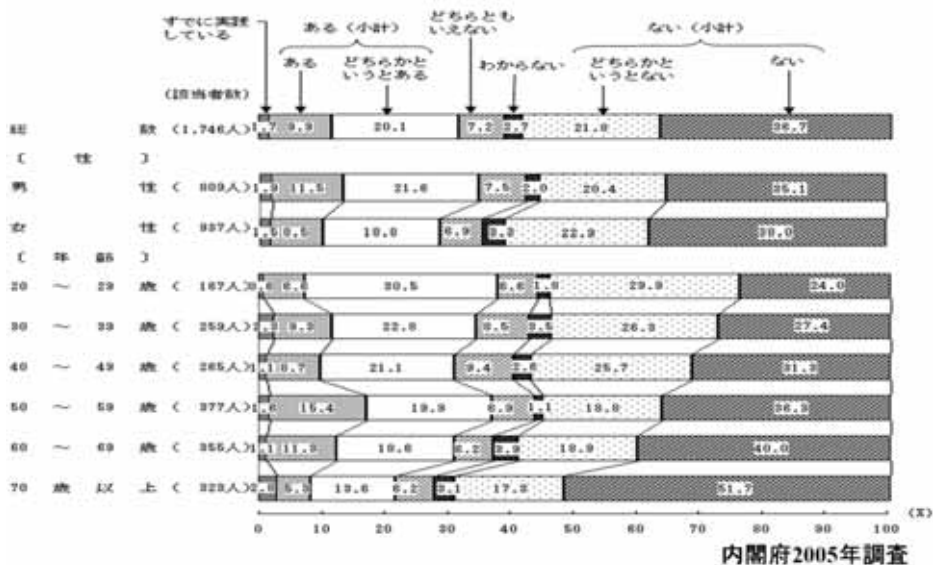
私の伝えたいこと!

日本の未活用の農村資源

- 日本の森林率は、先進国中第2位
- 日本の耕作放棄面積は、40万ha
- 日本の農業用水路の全延長距離は、地球10周分

都市住民の田舎暮らし、農山漁村志向の高まり

図4 共生・対立に対する実践の願望



農村資源を都市のニーズと結べば、
10兆円産業・100万人雇用の可能性!

内訳

- 農商工連携・6次産業化含む農林漁業 3兆円
- 農村での観光・交流 2兆円
- 森林資源の建築・不動産活用 2兆円
- エネルギー・交通 2兆円
- 教育・IT・メディア・福祉等サービス分野 1兆円

農村資源を都市のニーズと
結べば10兆円産業が動き出す！
を実現するポイント

農村と都市をつなぎ、
事業の企画運営ができる
農村起業家の育成

都市と農村をつなぐ
起業家育成マニュアル

都市農村交流マネジメント
コーディネーター育成マニュアル

えがおの学校

基礎編



農村起業家
になる

地域資源を
宝に変える
6つの鉄則



日本経済新聞
出版社

思い立ったが起業の日!

『農村起業家になる』

地域資源を宝に変える6つの鉄則



まずは楽しく小さなビジネスモデルを考えてみよう。おらが村の自慢になるまで3年はがんばれ——。農村ビジネスのカリスマ伝道師が、地域にある資源を集めて事業を立ち上げ、軌道に乗せるまでのコツを教えます。

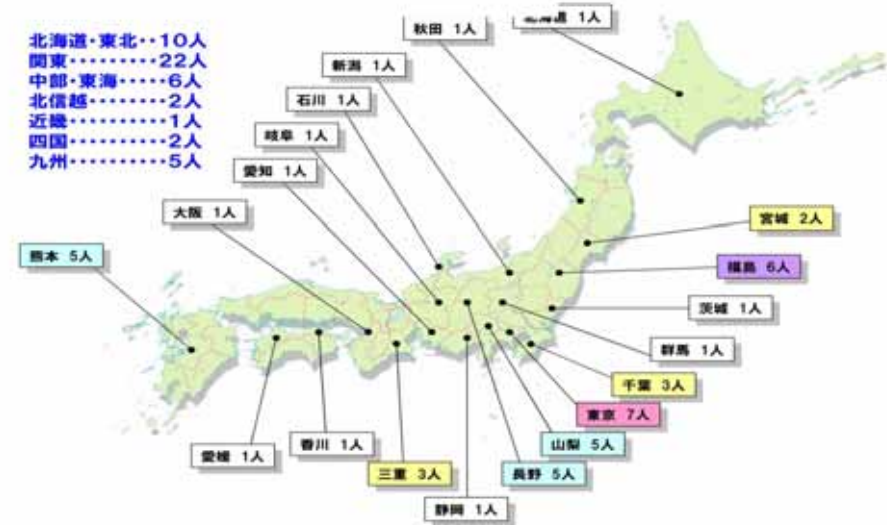
日本経済新聞出版社
2012年9月刊 定価1,600円(税別) 212頁

- ★「まず、始めるべし」の鉄則—農村起業の前提
- ★「楽しく小さなモデルを作り、アピールし続けるべし」の鉄則—農村起業の仕込み
- ★「立っているものは誰でも使え」の鉄則—農村起業の入り込み
- ★「一石二鳥、一挙両得」の鉄則—農村起業の成長期
- ★「負っても勝つ」の鉄則—農村起業の心算
- ★「地アタマ使って、顔角を現せ」の鉄則—農村起業の思考

日本経済新聞出版社 担当: 榎井 (T:03-5255-2931 yosuyaki.sakai@mes.nikkei.co.jp)

農村起業家育成 全国45名の起業支援、終了!

■インキュベーション事業 45名の起業場所



ソーシャルビジネス型 社会起業家を輩出するポイント

ゼネラリスト型中間支援から
スペシャリスト型中間支援の仕組み
が必要とされている！

スペシャリスト型中間支援機関の 要件とは！

- 1、専門分野の事業実績があること。
- 2、事業ノウハウの標準化があること。
- 3、ノウハウ移転先の事業者の経営上の分析
ができること。
- 4、教える技術、経験があること。
- 5、熱意があること。

日本の田舎は宝の山
農村資源を都市のニーズと結べば
10兆円産業が動き出す！

曾根原久司
NPO法人えがおつなげて代表理事
内閣府地域活性化伝道師
山梨学院大学現代ビジネス学部兼任講師
やまなしコミュニティビジネス推進協議会会長

山梨県、三菱地所株式会社、三菱地所ホーム株式会社
及び特定非営利活動法人えがおつなげてとの
山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定 締結式

日本の田舎を掘り起こせ～！
最後に、開墾モリモリ～
(^o^)

開墾！

モリ！モリ！



ありがとうございました！

日本の田舎は宝の山

農村資源を都市のニーズと結べば
10兆円産業が動きだす！

曾根原久司
NPO法人えがおつなげて代表理事
内閣府地域活性化伝道師
山梨学院大学現代ビジネス学部兼任講師
やまなしコミュニティビジネス推進協議会会長

山梨県、三菱地所株式会社、三菱地所ホーム株式会社
及び特定非営利活動法人えがおつなげてとの
山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定 締結式

